

11. 反射マルチによるカンキツ新品種「はれひめ」の品質向上

1. 背景とねらい

県内カンキツ産地では、食味が良好で年内出荷が可能な新品種として「はれひめ」の導入が徐々に広がっている。しかし、気象条件によって果実糖度が不安定であるため、対策として反射マルチによる「はれひめ」の品質向上効果を検討する。

2. 成果の内容

- 1) 「はれひめ」の果実糖度は、年次変動が大きく、最も高い年は 15.0 (2002 年) に対し、最も低い年は 8.4 (2004 年) である (図 1)。
- 2) 「はれひめ」の収穫期における果実糖度と 7～11 月の気象条件との関係を解析した結果、果実糖度は 9 月の日照時間が長く、降水量が少ない年に高い (図 1, 2)。
- 3) 反射マルチ処理により、果実糖度が約 1 度高まる (表 1)。また、減酸がやや抑制され濃厚な食味となる (表 1)。
- 4) 反射マルチ処理により、着色 (赤味) が濃くなり、浮皮発生の程度がやや軽くなる傾向がある (表 1)。
- 5) 反射マルチ処理により、小玉果率が高まることはない (図 3)。

3. 普及上の留意点

- 1) 反射マルチの処理期間は、9 月上旬から収穫期までとする。しかし、7～8 月の降雨量が平年より多い場合には、8 月中～下旬から被覆を開始する。
- 2) 過乾燥によって果実肥大が抑制される場合もあるため、晴天が続く場合には葉色と巻葉の状況を見ながらかん水するか、降雨時にマルチをはぐって雨水を入れる。

(果樹研究部)

4. 具体的データ

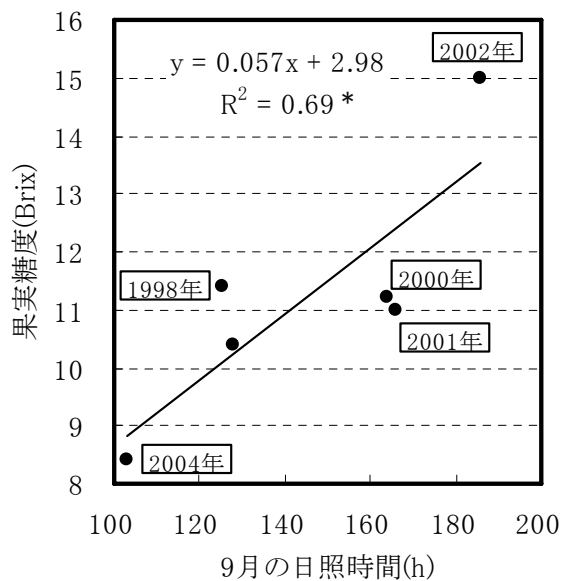


図1 9月の日照と「はれひめ」果実糖度との関係

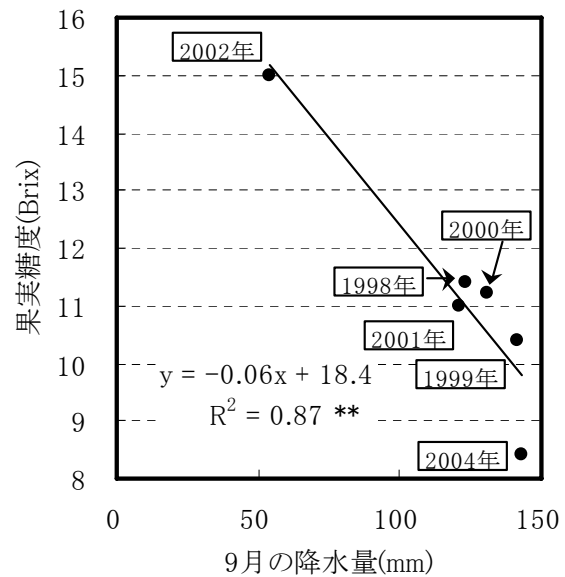


図2 9月の降水量と「はれひめ」果実糖度との関係

表1 反射マルチ処理の有無が「はれひめ」の果実形質に及ぼす影響

処 理 区	1果重 (g)	糖度 (Brix)	酸度 (%)	着色 (a 値)	浮皮程度
反射マルチ区	159	13.5	0.90	21.8	2.1
無被覆区	163	12.1	0.76	17.8	2.6
t 検 定	—	*	**	*	—

注) 1処理区3樹とし、1樹あたり2L果を3~5果ずつ分析した。

果汁分析は、12月4日に行った。

浮皮程度は、浮皮の無いものを0、著しいものを5として6段階に分けた。

反射マルチ処理は、透湿性シート（商品名：タベック）を用い、2006年9月4日から収穫期までの間、株元から1.5mの範囲を被覆した。

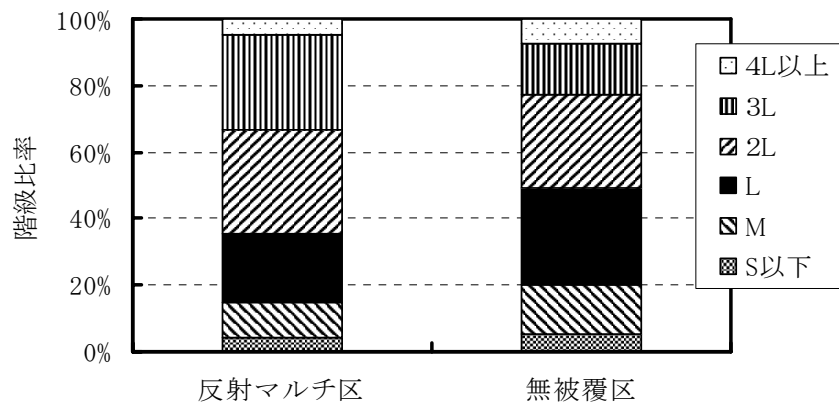


図3 「はれひめ」のマルチ処理の有無による階級比率
(2006年産、みかん階級)